

# 新しいお風呂が出来ました

澤 功（澤の屋旅館主人）

※この記事は日観連機関誌の2007年5月号に掲載されました。

発端は四年前に来たクレームの手紙です。宿泊したアメリカの若い女性から「お風呂場のタイルに黒ずんだところがあって、カビ臭くて入れなかった」という内容です。

家内は「お父さん、これを機会に共同浴場を全面改装しようよ。うちはほとんどバス無しの部屋なんだから、日本式のお風呂がよかったと喜んでもらえるようにして、部屋にお風呂がないことをプラスにしようよ」と勢い込んで言いました。

澤の屋のインテリアはすべて家内一任です。私の洋服も全部家内が買ってきます。私の役目は資金調達係りです。息子は保健所をはじめ役所の担当です。

家内はさっそく動きはじめました。月刊「ホテル・旅館」をはじめ業界紙などから浴槽はなににするかの情報集めです。そして「アステック」の桧風呂と陶器風呂に決めました。折りしも毎年3月に開催されている国際ホテル・レストラン・ショーに実物を見るために連れて行かれました。

さっそく浴槽の見積もりをとって、それから改装工事全体の見積もりを町会の坂本建築さんに頼むと、工事費は約1,100万円で工事期間は25日かかると言われました。

私どもでは、毎年6月に一週間休業して私と家内は海外旅行に出かけ、その間に改修工事をしてきました。しかし、今回の工事費は年売上高3,000万円の私どもにとっては負担が大きく、また25日間の工事期間は予約が入っていて6月にとることはできませんでした。

その結果、17年間続いた家内との年1回の海外旅行は18年目にして中断されました。

次年度での工事の計画を立て直している時に、台東区役所の観光課の人に「澤さん、台東区では観光業者がバリアフリーに設備を改善したら補助金がでます。かかった資金の半分が補助金としてですが、最高限度額は250万円です。これを使って設備改善をしませんか」と言われました。

この話しは、資金調達係の私には願ってもない話でした。

これを使えばできると計画を立て直している時、所有する十室のアパートの三室が空いてしまいました。畳敷きで和式のトイレでは借り手がないと言われて全面改装しましたら600万円かかって、2年目の計画も挫折、そんな状況でその年の海外旅行も中止になりました。

いよいよ3年目の仕切り直しです。そんな時、国際観光施設協会の委員会です。いつもお世話になっている中山庚一郎先生にお風呂の改造の話をしますと、見積りを見直してくださり、図面へのアドバイスを

いただいて、完成への青写真ができあがりました。

あとは資金を調達するだけです。息子は台東区役所に補助金の250万円を申請し、私は国民生活金融公庫に560万円の借入申込みをして、自己資金300万円の準備もできました。

いよいよ平成19年1月15日から25日の工期で改修工事に入りました。旅館は休業しないで、2室のバス、トイレ付きの部屋のシャワーを交代で使ってもらおう。または、近くに3軒ある銭湯に行ってもらおうことにしました。

銭湯の料金は、1回大人480円ですが、11枚綴りの入浴券は480円でした。銭湯を体験したお客さまには、番台に男の人が座っていたのには驚かれたとのことですが、風呂桶で身体にお湯をかけるのが面白かったとか、結構楽しんでいただけました。

工事の方は、始まってみると土台が腐っていてやり直したりしましたが、それでも2月12日には完成しました。

段差をなくし、手すりをつけ、バリアフリーの仕様にし、また、レジオネラ属菌などの除菌のため「ジャンメ」のバスシステムを装置しました。

中山先生の構想で、小さな庭を見渡せる窓もできました。お風呂を利用した外国のお客さまに「ファンタスティック」とか「ワンダフル」と言っていたいて、家内はご満悦です。

でも、自己資金を使ってしまい、今年の海外旅行も断念です。来年こそはミラノに行つて「最後の晚餐」を見ようと、私は心に誓っています。